

Certification Board of Nuclear Cardiology (CBNC) について

Certification Board of Nuclear Cardiology (CBNC)

松本直也

Naoya Matsumoto, MD, PhD

日本大学病院 循環器内科

Department of Cardiology, Nihon University Hospital

CBNCは米国における心臓核医学認定医制度である(<http://www.cccvi.org/cbnc/>)。認定にかかわるディレクターたちは、おもに米国心臓核医学会(American Society of Nuclear Cardiology: ASNC)とAmerican College of Cardiology学会から選出されている。CBNCの使命は、1)心臓核医学認定のための実務領域を確立すること、2)心臓核医学を専門とする者の知識のレベルを評価すること、3)心臓核医学プロフェッショナルの育成を促すこと、4)CBNCによって決められた要求を満足させた人を認証すること、5)心臓核医学実務におけるクオリティに富む患者ケアを促進することによって公共の利益を提供することである。米国で心臓核医学検査の読影を行って報告書を作成している医師は、皆この資格を取得することを目標としている。CBNCのホームページ(HP)に行くとCBNCを取得している者を検索することができる(<http://www.cccvi.org/certification/index.cfm>)。

わが国に居住していて心臓核医学検査に従事するうえでCBNC認証を要求されることはないが、自分の知識を国際的に認証してもらうことには意義があると考えている。特にこれから海外留学を考えている若手医師においては国内でCBNCを取得しておくことと留学先へのアピールになるかもしれない。

受験資格は米国内、米国外受験者に分かれており、わが国から志願することが可能である。HPに行くと

試験内容についてのガイドラインを確認することが可能で、試験を受けて心臓核医学に関する一定の技能が認められると認定される。認定期間は10年間と定められており10年ごとに再び試験を受けて再認証を受けて合格しなければ引き続いてCBNCを呼称することはできない。満7年を経過するとつぎの10年のための再認定試験を受ける期間として3年間の更新期間が設けられる(試験は年に1回なので3回の受験資格となる)。筆者が2000年に初めて米国にて受験した際には試験会場はシカゴ1カ所であり、ロサンゼルスからCBNC試験のために1泊2日で訪れる必要があった。試験のあとには分野別に正答率が送られてくる。また現在はわざわざ試験のために渡米する必要はなく、国内で受験可能である。プロメトリック<http://www.prometric-jp.com/>という全世界的な資格試験専門の会社があり、HPのなかからCBNC試験を選択することができる。毎年受験できる期間が決められており、受験会場は東京・大阪など国内の主要都市から選ぶことになっている。試験は医学生が受けるCBTと同様であるが問題文、解答の選択肢はすべて英語である。したがって問題文の英語を理解する能力も同時に試されることになる。英語圏への留学を経験した医師にも是非留学の集大成として実力を検証する意味においてCBNC試験を受けることをお勧めする。